

諏訪神社

小高を歩く

7年に1度の長野県諏訪大社の「御柱祭」が報じられました。諏訪大社は、全国各地に約2万5千社まつられる諏訪神社の総本社で、国内でも古い神社の一つとされています。

市内では千葉県宗教法人名簿に登録された66の神社のうち、ただ1社、小高区(飯高

地区)に諏訪神社が鎮座しています。

同社は、県道74号線から小高区の集落に入り中心部に向かい、1月に「裸参り」が行われる妙長寺門前を過ぎ、多古町坂区に通じる道路沿いの林の中にまつられています。

境内入り口向かって右側に大きな石灯籠、左側に杉の大きな木、正面にしめ縄が張られた石の鳥居、丁寧に車止めまであります。

小高区に鎮座する諏訪神社



神社の由緒を伝えるものは、明治初年に千葉県に提出された「神社明細帳」で、1408年にまつられたとする伝承や氏子数33戸と記載されています。小高区には、1325年の年号が刻まれた板碑があり、当時から古い集落であることが考えられます。

境内に入ると、1796年に奉納された一对の石灯籠、拜殿、本殿へと続きます。本殿の右後方には境内社として古峰神社がまつられています。同社の本社は栃木県鹿沼市古峯ヶ原に鎮座し、特に火伏や天狗の信仰が知られています。市内には同社を信仰する人たちが組織する古峯講があり、その代表が参拝する「代参」が行われていますが、小高区のように社がまつられる例はあまり見られません。

拜殿の左側に「南無大黒福寿天」と刻まれ、1864年にまつられた石塔があります。「惣村講中」とあることから、江戸時代の小高村に「大黒様」を信仰する講があったことも知られます。

このほか、痘瘡神をまつる1774年の「妙正大明神」や1786年にまつられた「天満宮」などもあります。

同区には安産信仰の八坂神社もありますが、明治時代に村社となった諏訪神社にも、戦前「裸参り」の人たちも参拝したといわれています。

(市文化財審議会委員・

依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班

☎73・0080